

# 成功の幼時

樂 天 子

世に大なる功をたてたもので、小學校だけの教育を受け永く小學の頃を忘れぬものは少くない、高等教育の發達せぬ以前の事は措て言はぬとし、現代に於て一例をあぐれば、英國のチエムバレン氏は其の主なるものである。氏は獨逸のウイヘルム二世、米國のルースヴェルト氏と並んで世界の大立物と見られたことがある、今は稍々勢力がないが尙斯く思はれぬでもない。日英同盟は種々の事情から成り立つて居るが、英國側より見れば南阿に四十五萬の兵を出し、二十億の金を費したため、露國に對し東亞に勢力を維持するに困難を感じたといふ處もあらふ。此の大戦役を執行するに擧つて最も力あつたのは、即ちチエムバレン氏であつた、殖民大臣でありながら總理大臣以上の勢力を振ひ、其の長男も内閣に列した程であつて、一時英國の政治はチエムバレンの政治といつて宜しいのであつた、只に政治の上で重きを占め

て居るばかりでなく、グラスゴー大學の總長に推されバルミンガム大學の總長に推された、固より名譽職であるけれども、兎に角その職に居つたのであつた、又ケンブリッジ大學、オクスフォード大學、及びダブリンより大博士の學位を受けて居つた。

ところが氏は如何なる教育を受けたかといへば、僅かに小學を卒へて少しく中學校に學んだに過ぎぬ。氏の評判はさまざまで、大に賞むるものもあれば、大に罵倒するものもあるが、孰れにしても、目前の事を處断するに最も巧みで、自分のなさんとする所は、如何なる手段をも顧みず、どういふ無理をも厭はず、以前の敵を味方とし、以前の味方を敵としてかまわぬ、皆其の時の都合次第であるといふに一致して居る。しかし唯よき機會を得たるばかりでかかる地位に至つたといふ譯には行かぬ。どこかに普通に優つた處があるのである。氏は子供の時にジャーロットベース嬢に就て、書を讀む事を學び、十歳にしてアーサージョンソンの小學校に入つて十四歳で倫敦大學附屬に入り、

十六歳の時に之を去つて以來全く教育を受けないのである、しかし自分の地位が次第に上つて來ても、何時も前に居つた學校を忘れず、ベニス嬢が老衰しても度々見舞ふ事を忘れなんだ、又長男を伴つて、ジョンソンの小學校を見舞ひ、以前行處に腰掛があつて、何處にオルガンがあつたといふ様な事まで説き示した。小學校の外教育を受けた事なく、先生といふもそれだけであるから、能く覚えて居るのであらうが、子供の時に教育を受けた所を永く忘れぬのは、只の成り上りのものなし得る所でない。自分勝手に事をして遠慮會釋もないと考へられて居るが、子供の時に世話を受けたものを忘れぬ所を見ると大事を成し遂げたのも、偶然でない事を推し測ることが出来る、もとより欠點の多い人物であるが、この邊は小事でも感心といはねばならぬ。

すべて世の中に立て大事業を成すものは、普通の成り上りものと異りたる所があるらしい。子供の時の先生を忘れぬと云ふ事は、極めて平凡の事であるが、普通の成り上り者にはないやうである、大

事業をしたものは、人を人とも思はず、不人情の様な所が見えても、その間にどこか人情の自然を得て居る所がある。ナポレオン一世の如きは、何人も蓋世の雄者とする所であるが、時として腕を組んで椅子に掛つたまま考へ込んで居たことがある、左右の者は何か雄圖を案じて居ると思つて居た。所が後で人に語つていふには、自分が黙して考へて居ると、人は色々心配して居る様であつたが、實は子供の時にコルシカに居た時の事を憶ひ出して居たのであるとの事であつた。

世には子供の時の事を忘れて可なりに仕事をする者もないではないが、かゝる者は概して大に伸びる事が出来ぬと看做して差支なからう。

